

# まちづくりにおける風水思想に関する研究

## ～香港を対象地域として～

1G5j039-4 蘇 広宇<sup>敬</sup>

Guangyu Su

人間は単純な利益のために土地を開発してきたが、現在の都市計画においては自然と都市が最適な状態に調和するまちづくりができるようなマスタープランが求められるようになってきている。本研究ではそのような考え方の一つとして、風水思想に注目し、風水思想が市民生活に密着している香港を対象として、香港市民の風水に対する意識をアンケートによって明らかにした。また、風水思想が現在のまちづくりに対してどのような方法で貢献できるのかを考察した。

*Key Words* : 風水思想 まちづくり 香港

### 1. 研究の背景と目的

現在都市には人工的な建築物が溢れており、人間はこれらの建設に夢中になっているため、都市を囲んでいる自然の環境に対する意識は次第に薄くなりつつあり、都市立地の選択や都市設計などの目的は、すべて物質的な利益に着目したものになっている。したがって、自然の環境を削って、また大地の資源を掘り出し、人間の物質的な生活に役立てようというやり方は、まさに人間と自然が対立する形を取っている。

一方、古代のやり方というのは、まず大地を尊敬しながら、自然を理解することをもって自然と共存できるルールをつくり出す考えであった。これによって、人間にふさわしい居場所とは自然を改造して作りだした空間ではなく、自然の流れにしたがって自然環境の中から人間と自然とを結びつけられる生活空間をつくること目指されたのである。つまり、人間の利益の前に、まず自然環境を考慮することが前提としてある。

こうした思想は東洋思想の中の一つである風水思想のとして体系化されてきた。この風水思想が多くのアジア都市開発とまちづくりを行う際に一つの重要な概念として使われ、また、多くの市民が現在でも風水思想を尊敬し守っている。たとえば、アジアの大都市香港では風水に対する市民の関心は高い。また、香港では風水だけではなく、様々

な宗教と香港市民生活に緊密な関係を持っている。このことは現在の香港がユニークなまちとして形成されている一つの要因とも考えられる。そこで本研究は、香港を対象地域として、香港市民の風水思想に対する認識を明らかにすることを目的とする。また、その結果を踏まえて今後のまちづくりにおける考え方、宗教、文化などのソフトな面について考察する。

### 2. 研究方法

本研究では、まず風水思想に基づいた古代都市の立地や街並みの計画方法、都市における風水思想を考慮した敷地の選択を文献から調査し、風水思想とその利用方を理解する。そして、現在でも風水思想が市民生活に影響しているアジア都市香港を対象にしてアンケートにより意識調査を行う、現在の都市計画に対して経済、政治、文化などの機能的な側面ではなく、宗教的背景や伝統的な信仰を重視している風水思想がどのような影響を与えているかを考察する。

### 3. 風水について

#### 3.1 風水の定義

風水は狭義では地占術を示し、風水という名称はこの地占術の通称として一般庶民の間に広く流行している。ところが風水の実態は、この周知の実用性のある技術というだけではなく、哲学の思想でもあり、古くから人々に信仰さ

れてきた。その教えは儒教、仏教、道教にとけこんでおり、伝統文化の一つとみるべきであろう。風水の理論は宮室、都市、村落、寺社、住宅にも影響を及ぼし、さらに死後の世界であるお墓の営造にまで影響を与えた。こうした思想体系の展開には一定のプロセスがあると思われる。つまり、歴史の流れとともに風水の内容が充実し、理論が複雑になったのである。そして、風水の名前の変移から、風水体系の形成の背景となった思想の反映を知ることができるのである。

風水思想のもとには自然や大地が単純な物質だけではなく一つの生命をもつ有機体であると認められており、さらに人間がこの大地の一部として考えられている。ゆえに、人間と自然を統一することが風水の根本であり、あらゆる地上の営造物や人間による開発は自然や大地を調和しなければならぬと考えられる。

風水思想は大きく二つの系統に分けることができる。一つは地形、もう一つは方位である。地形は風水の起源であり、それは自然環境とかがわっている具体的な論理である。これに対して方位は陰陽、五行などの理論を中心として構成された風水体系であり、これらの論理の推算により風水方位の吉祥をきめるものである。

### 3.2 古代の風水思想

中国で発生した風水技術は、最初の一つの実用的な技術として使われていた。自然環境のなかに人間の居住区間を形成する過程で得られた経験を積み重ねてきた技術であると考えられる。それは技術的には未熟であったが、のちの風水の原則の様々な糸口を含むのであった。古代の居住地選択方法が中国における最初の風水行為であると思われる。これまでは占卜が立地の決定要因と考えられてきたが、実際の選地のプロセスから判断すると、まず、地形が観察され、植物を食して土地の良さが試されており、生活条件にたいする検討も立地決定の過程で深く意識されていたことが明らかになった。

古代で天体運行が観測されるようになった。その結果から得られたものが都市の計画基準として用いられた。その結果、都市や宮室は東西南北の方向にそって整然として構成されるようになった。これは空間計画における知的な作法とも呼べるものである。

人間の自然に対する理解から得られた経験側であるとされる。風水の実用的な面を示している。人間が自ら

の存続や生活の向上を願って、無病や平安に努力することはその本能であると思われる。時代にとわず、いかなる地域においても、安心立命の生活空間を確保することは人間の最大の関心事である。古代の人間と大自然とも摩擦や調和の繰り返しから学んだ経験は、人間が自然環境と付き合う準則となり、人間はそれを活用して大地の上に生活環境を備えてきた。この経験則による知恵が、風水の本来の姿である。

### 3.3 現代都市にある風水事情

近代になって功利主義的な現代風水論調がますます高まってきた傾向がある。金銭や時間をかけ風水技術を用いて吉地に住宅やお墓を営むことは、自身の発達や子孫の栄耀と幸福への投資なのである。このように風水によって「未来の利益」を得ることが当然の目的とされ、この利益を邪魔する「気」の流れの破壊行為は許されないことになる。たとえば、中国では鉄道の計画路線が龍脈を切断する恐れがあるという理由で、路線変更がなされた。また、現代的なビルが林立する香港では、高層ビル同士の風水戦争が話題になっている。さらに、香港の九龍城の取り壊しや中国台湾の基隆の公共墓地の移転に当たって住民の反対運動がおきたが、その理由として風水破壊が堂々と取り上げられている。このように、現代の風水技術の活用が、きわめて現実的な功利主義に基づいてなされるようになってきている状況である。

また、風水思想の形成の歴史から見ると、古代の伝統宗教である儒教、仏教、道教に風水説が少なくなからず影響を与えているとともに、これらの宗教による影響も風水説にみられる。つまり、風水思想と古来の伝統宗教はお互い影響を及ぼしあっているのである。伝統的な宗教と風水の間に切り離せない関係があるため、風水思想は宗教ではないが、宗教であるとしてとらえる傾向がある。したがって、現代都市の市民宗教生活と風水思想が深い関係があると考えられている。

択するとき、建築物を立てるときに必ず風水に詳しい人に尋ねる。このような風俗が現在の市民生活にも影響しているといえる。香港での現地調査では、一般市民生活のどこに根付いているのかを、香港での町歩きと一般市民に対するヒアリングによって明らかにする。

### 3.4 香港市民に対するアンケート調査

香港とは現代的な都市にも関わらず、伝統的なこと、宗

教的なことを重視している。一般市民の生活の中に、都市の面では風景や町並みなどにも反映されている。実際の香港市民が風水のことをどう考えているか、どう認識しているか、そして街づくりの面でどのような要求があるのかをアンケートを通じて調査していく。

#### 4. 香港と香港にある風水事情

##### 4.1 香港の概要

香港は中国の東南部の沿海部に位置し、東亜の中心地帯にある。現在の香港は香港島、九龍半島、新界および周囲の南シナ海にある235余の含めた地域を指す。面積は約東京の2倍程度。ここでは本研究の中心となっている香港島と九龍半島を紹介する。

香港島は香港にある島の中で2番目に大きい。1887年から埋立が行われており、この面積には約7平方キロメートルの埋立地が含まれる現在のQueen's Road, King's Roadよりもビクトリア港側の土地は埋立により作られたものであり、現在では海から離れている場所に海や船乗りの守護神として信仰されている天后を祀る道教寺院があることに、その名残りをみることが出来る。島の北部にある中環は香港の歴史、政治、経済の中心地である。

九龍の名称は、この地域の周りの九つの山から龍が降りてきて永遠に発展する地になると言う風水からきた説がある。九龍の主な地域以下通りになっている。九龍地区で最も繁華な場所は九龍半島を南北に貫通する彌敦道である。九龍はこの通りを都市軸として据え、その周囲をおおよそ基盤状に区画している。

尖沙咀及び佐敦は九龍半島の先端に位置する街で、彌敦道の始点となる場所。香港で最も繁華な地区のひとつでもある。世界的なブランドの高級衣料品店、宝石店、ホテルなどが軒を連ねている。彌敦道沿いの油麻地周辺は観光客などが多く集まり、高級衣料店や両替商、土産物店などが多い。昼間から夜間には油麻地から旺角の一角に露天商が現れ活気が溢れる。旺角には整備されたバスターミナルなどはないが、大手バス会社の路線が集約されている他、多くのミニバスの発着点になっているなど、交通の要衝である。九龍城は、閉鎖された啓徳空港が隣接していた場所として知られる。九龍半島の東部分が香港の行政区分としての九龍城区に含まれるが、狭義には九龍寨城に近接する下町地域を指す。この地にはかつて清朝の軍事施設であった九龍寨城があったことでも知られる。スラム化していた九

龍寨城跡地は1994年に取り壊され、九龍寨城公園として再開発された。



図一 香港の地図

##### 4.2 香港にある風水事情

香港での現地調査に通じて、中国の伝統文化を継いでいる香港市民に対して風水思想が非常に大切なものであると感じることができた。都市の開発を行う際に風水関係で残されている景観、建築物の外装やデザインに風水思想が入れている事例、風水思想により建築物の方位や敷地を決める事例など、大きい面での風水思想に関することがわかった。

また、市民生活面においては引越しや、新築の購入、一年間の運勢などに関する風水による予測と評価が一般的に市民の間に行われている。



図二 風水のものを販売する店



図一3 夜の市場にある風水の店舗

## 5. アンケート調査

### 5.1 調査の目的

香港は風水思想が盛んである都市だけでは、複雑な歴史を持っていることによってたくさんの文化が混ざっている都市である。香港の原住民と転居して来た住民、富裕層と貧困層、各国籍などいろいろな要素で生活エリアが分かれている。香港でのアンケートに通じての風水思想に関する市民意識調査は人がどの形で風水のことを思っているか、そして風水思想が一面としてまちにある宗教文化などが市民生活に対する影響を明らかにすることが本アンケート調査の目的である。

### 5.2 アンケート調査方法

アンケート調査は、風水に対する考え方が異なるであろうと思われる属性ごとに以下の2種類を行なった。

#### 調査 I

九龍島を中心にし、黄大仙（占いの街）と廟街（夜の市場）にいる人を対象とする。この対象者はある程度風水に関して理解していることが想定した。この人たちの普段生活と風水に関する意見を調査する。

#### 項目：

- I 風水とはどのようなものだと思うか。
- II 生活の中に風水のことをどの程度配慮するか。
- III どこから風水に関する情報を得るか。
- IV 風水のことは本当に生活に影響するか。
- V まちづくりにおいて風水を配慮すべきか。

#### 調査 II

香港の一般的な市民全体をアンケートの対象者とするため、香港各地で調査を行う。この調査では市民が風水とまちづくりに関してどう考えているのかを調査する。

#### 項目：

- I 風水思想を配慮して出来た街づくりの事例
- II 風水を配慮して出来た事例の認識調査
- III まちづくりにおいて風水を配慮する必要性
- IV 街づくりにおいてどの形で風水を配慮する手段
- V 風水思想とまちづくりの関係

## 5.3 調査結果

### 5.3.1 調査概要

アンケートの概要を表一1に示す

	調査 I	調査 II
日時	10/31	11/1-11/2
配布数	30 部	70 部
場所	九龍島	香港全体
対象者	風水関連の人	一般市民

表一1 調査状況

全体調査属性調査結果を表一2と表一3に示す

表一2 性別

性別	男性	女性
人数	19	81

表一3 年齢

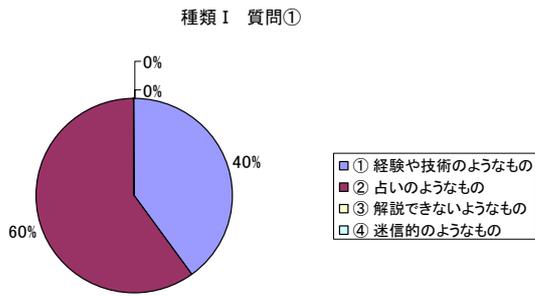
年齢層	人数
20歳以下	0
20-30歳	9
30-40歳	26
40-50歳	48
50歳以上	17

回答表の属性について、性別に関しては女性が男性よりも明らかに多くなったこれは回答してくれた人が女性が多かったためであり、女性のほうが風水に対して関心があるとも考えられる。また、年齢別から見ると20歳以下からの回答がなく、主に30歳以上の人が回答の中心になっている。

### 5.3.2 調査 I の結果

調査の主な結果について以下順に示す。

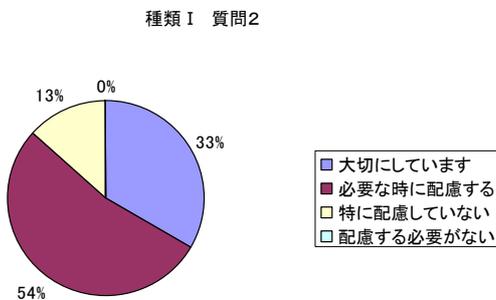
質問1：風水はどのようなものだと思いますか



グラフー1 種類Ⅰ質問①の結果

風水は経験技術や占いのようなものと認識されている。つまり、合理的であると考えられている。

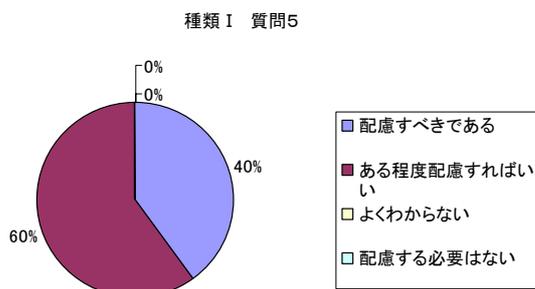
質問2：普段の生活の中に風水のことをどの程度配慮しますか



グラフー2 種類Ⅰ質問②の結果

生活に大切にしていると必要な時に配慮するとの回答が87%を占めている。多くの人の生活に必要である。そして、生活にも使われていると言える。

質問5：まちづくりにおいて風水を配慮すべきだと思いますか



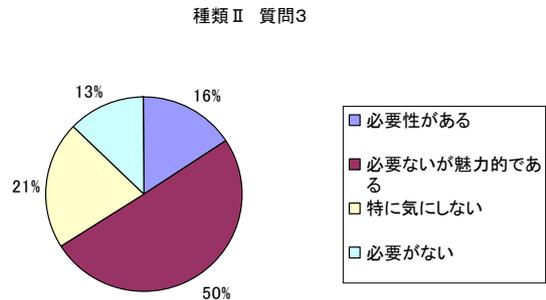
グラフー3 種類Ⅰ質問⑤の結果

調査Ⅰの回答者においては、風水は合理的であり、そして自分の生活にも影響し。まちづくりにおいても配慮する必要があると考えている。

### 5.3.3 調査Ⅱの結果

調査Ⅱの主な結果について以下に順に示す

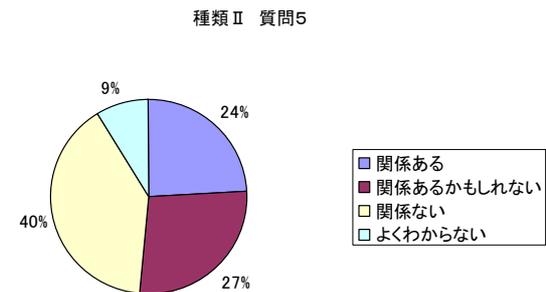
質問3：まちづくりにおいてどの形で風水を配慮する必要性についてどう思いますか



グラフー4 種類Ⅱ質問③の結果

必要がある、あるいは魅力的と考える人は66%を占めるので、まちづくりにおいての風水思想が一般市民に対しても意味があると考えられているといえる。

質問5：風水思想をまちづくりは関係あるか



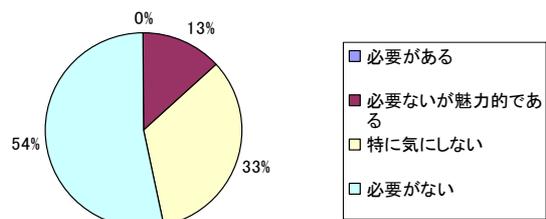
グラフー5 種類Ⅱ質問⑤の結果

一般市民にとっても約半数が風水はまちづくりにおいても関係がある、あるいは魅力的であると考えられている。しかし、まちづくりと絶対必要な関係を持っていないとの認識も明らかになっている。

### 5.3.4 クロス集計分析

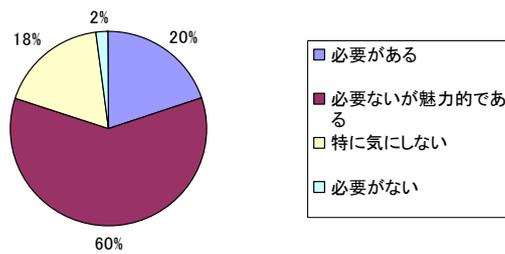
まず性別と風水に関する意識を考察する

性別別の結果



グラフー6 男性の結果

女性別の結果



グラフ7 女性の結果

調査Ⅱの質問3ではまちづくりにおいて風水の必要性をまいたところ、肯定的な意見は全体では66%だが、男女別で見ると、男性は13%であるのに対し、女性は80%と大きい差があった。アンケート協力者も女性の方が多く、風水とまちづくりの関係に関しては、女性の方がより関心をもっていると考えられる。

**次に風水に対する意識をまちづくりへの必要性についてのクロス分析を行った。**

調査Ⅰの質問2で大切にしていると回答している10人が質問4では全員が自分の生活に影響する、そして質問5では配慮すべきであると回答した。

調査Ⅰの質問4において影響していると回答している12人が質問5では全員が配慮すべきであると回答している、また、この12人の10人が質問2では大切にしていると回答した。

以上の結果にしたがって、生活に影響している、そして大切にしている、また配慮すべきであると三つの回答を選んでいる人が全部で10人いる。つまり、風水のことを理解している人に対しては、風水が自分の实际生活に影響していることがいえるので普段の生活においては風水のことを大切にしている、まちづくりにおいても風水のことを配慮したほうがいいと思っていることを考えられる。

**風水の必要性とまちづくりの関係についてのクロス分析結果を示す**

調査Ⅱの質問3で必要があると回答した11人の中で質問5で全員が関係があると回答した。そして質問5で関係があると回答した残りの6人が質問3で必要ないが魅力的であると回答した。

質問5でよくわからないと回答した6人中質問3で全員が必要ないが魅力的であると回答した。質問5で関係ないと回答した人28人中、質問3で4人が必要ないが

魅力的である。

まちづくりにおいて風水を配慮する必要かあると思っている人はやはり風水とまちづくりは関係があると思っている。また、配慮する必要はないと考えている人の中でも魅力的であることがわかった。したがってまちづくりにおいての風水思想には意味がある。そしてまちに対して魅力的である。

## 6. 結論と今後の課題

本研究は、風水思想についての基礎調査としてアジアの有名な都市香港を対象地域として現地調査およびアンケート調査を行った。これに通じて香港は様々な文化に溢れている町を実感した。香港における風水思想は香港市民に広く認識され、実際の香港市民生活においても風水の要素が充実している。そして、香港市民が風水のことを正しく認識しているとはいえないが伝統的な文化の一つとして、香港市民に広く受け入れ、まちに対して魅力的であることが思っていることがわかった。科学技術が速く発展している現在でも、香港では風水思想をはじめ、たくさんの宗教的文化が香港市民生活を豊かにするため貢献していると考えられる。

香港では風水思想が市民に認識されており、またまちづくりにも反映されている。しかし、実際の風水思想の誕生地中国では、行政側がこれを認めることが難しい状況である。これは一般市民が風水のことを正しく認識することができない原因ともなりえる。風水思想はひとつの伝統文化として、特にまちづくりにも深い関係を持っている点を大切にすべきである。また、東南アジアにおいても非常に重要な思想でもあり、今までに風水に関する研究が少なく、今後この地域におけるまちづくり、下町づくり、環境計画などに必要になっていることが考えられるので民間にある資料の整理、実際に応用する手法を研究する必要があると感じた。

## 7. 参考文献

- 黄 永融 「風水都市 歴史都市の区間構成」  
(1999年 株式会社学芸出版社)
- 井上 繁 「世界まちづくり事典」  
(2007年 丸善株式会社)